

# アートの魅力伝え22年

長崎歯科衛生士専門学校(長崎市茂里町)で美術講師を務める内藤修子さん(75)は、本年度で22年間の講師人生に幕を下ろす。「どんな作品と出会い、どんな生き方をするかは自分次第」。人生を彩るアートの魅力を伝え続けてきた内藤さんは9月27日、平和への祈りをテーマに、学生たちとの最後の公開制作に取り組んだ。

## 歯科衛生士学校講師の内藤さん

同校は1年生のカリキュラムに「芸術」を設定し、学生は華道、茶道、書道、美術から選択するようになっている。美術の授業では、自画像やコラージュ作品の制作、美術館での鑑賞教育などさまざまなプログラムを実施。多様な価値観に触れることを大切に、「名画だけではなく、アートは街のあちこちにある」と伝えてきた。

公開制作は、同市のベネ

## 本年度引退 学生と最後の公開制作



公開制作を楽しむ学生たち。長崎市、ベネックス長崎ブリックホール



学生と笑顔で語り合う内藤さん(右)

長崎市、ベネックス長崎ブリックホール

ックス長崎ブリックホールで開催中の展覧会「展覧会」の一環。学生はパステルや絵の具を使い、ハト、太陽、花など温かみのあるモチーフや、躍動感ある線や模様を描き込んでいった。

「こんな壁に描いたことない」「絵が好きだったけど、最近描いてなかったな。楽しいね」。学生は互いに語り合いながら、夢中になって手を動かした。1年の市川ひなのさん(19)は

「美術の授業はいい息抜きになる。国家試験へ向けた勉強は難しいけれど、メリハリをしっかりとつけ、優しく信頼される歯科衛生士になりたい」と語った。

公開制作は来場者参加型で実施し、学生に親子連れも加わり、にぎやかな作品に仕上がった。内藤さんは学生に「戦争で大変なことがあったが、今はアートができる時代になった。平和の大切さを自分たちが受け継いでいくという思いで生きていってほしい」と語りかけた。

この日完成した作品は7日まで展覧会の会場に展示する。(清水嘉子)